沖縄戦の概要

平和記念資料館

展示室

1.)沖縄戦への道(The Road to the Battle of Okinawa)
沖縄戦に至るまでの沖縄の歴史や戦争がなぜ起こったのか展示
Exhibits Okinawa's history leading up to the Battle of Okinawa and why the war occurred.

2.)鉄の暴風(The Typhoon of Steel)
沖縄戦の実相を住民の視点から描く被災状況を立体地図や映像実物等で展示
The reality of the Battle of Okinawa is depicted from the perspective of the residents through relief maps, videos, and actual items.

3.)地獄の戦場所(Battleground of Hell)
沖縄戦で住民の受けた惨劇を地下（ガマ）と地上（死の彷徨）で象徴的に展示
A symbolic display of the tragedies suffered by residents during the Battle of Okinawa, both underground (Gama) and above ground (Wandering of Death)

4.)証言(Testimonies Eyewitness Accounts)
沖縄戦の体験を証言集と証言映像で展示
A collection of testimonies and video footage of experiences during the Battle of Okinawa

5.)太平洋の要石(Keystone of the Pacific)
戦後の収容所生活、27年間の米軍統治、復帰運動、平和創造を目指す沖縄を展示
Exhibits include life in the postwar internment camps, 27 years of US military rule, the reversion movement, and Okinawa's efforts to create peace.

ひめゆり平和祈念館

「ひめゆり」というのは、わたしたちの学校の愛称です。 那覇市安里の校舎で、13歳から19歳の生徒、 約1150人が学んでいました。 勉強やスポーツにうちこみ、友達との楽しい時間を 過ごした学校は、1945年の沖縄戦によって、なくなってしまいました。 戦争は、学校だけでなく、友達や先生方の大切な命も奪っていきました。 戦争は、いつも身近にあったのに、本当の戦場の姿を知らなかったわたしたち。 わたしたちは、体験してはじめて知った、戦争の恐ろしさ、命の尊さ、 平和の大切さを伝えていきます。

ひめゆりの塔には、学校全体の死亡者227人が刻銘されています。

平和の礎

戦争でなくなったした人に記念するために建てられた。
体がなくても、思い出は残って、恋しい。

戦争にかんするどう思うアンケート

令和６年度の平和学習

松本ひろみさんの物語

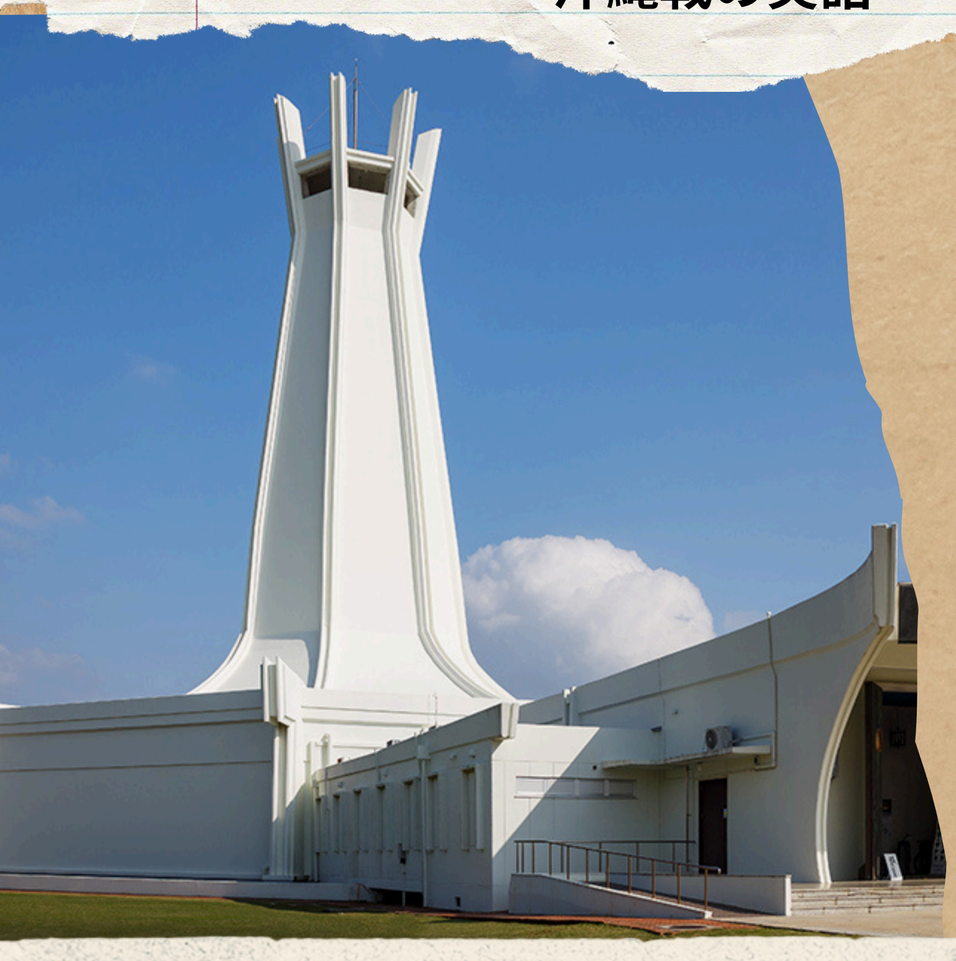
“祖母は沖縄戦の犠牲者でした。他の地元住民や日本兵と共に洞窟に隠れることを強いられ、彼らはアメリカ軍を恐れて生きていました。子供たちが泣くと、兵士たちは発見を避けるために母親に子供を殺すよう命じました。祖母は生後8か月の娘を殺すように命じられましたが、拒否しました。他の人々からの圧力にもかかわらず、彼女は断固として拒否しました。ある日、絶望した叔父が子供を外に連れ出すと、アメリカ人は危害を加えるつもりはないことが分かりました。これは、指導者の宣伝によって引き起こされた悲劇的な誤解でした。”

〜沖縄戦の実話

war is bad, don’t do war.

リーダーは賢くて思慮深くあり、無謀でないことが重要。沖縄戦の物語は、指導者の責任と、真実と思いやりで人々を導く重要性を示している。

沖縄県平和祈念資料館



平和祈念公園は本島南部の「沖縄戦終焉の地」糸満市摩文仁の丘陵を南に望み、南東側に険しく美しい海岸線を眺望できる台地にあります。
公園整備は琉球政府時代に着手、復帰後昭和47年から都市公園として本格的な整備を進めています。

戦前から戦後までの沖縄の歴史を展示する記念公園。この場所は、戦争の原因、戦争の残骸、生存者の証言、その後のセクションに分かれています。

ひめゆり平和祈念資料館

第二次世界大戦に際して、日本政府はひめゆり女校の学生に戦争に対するサバイバル技術や戦争で生き残る方法のトレーニングをさせました。1945年にアメリカ軍は沖縄に到着し、沖縄戦が始まりました。少女たちは戦場に送り込まれ、負傷した兵士を助けたり、彼らのために料理を作ったりして、危険にさらされました。1945年には沖縄戦のひどい出来事がありました。

この事件を生き延びた学生たちは、この場所を通じて自らの体験を語り、私たちが真実を明らかにすることを可能にしてくれました。

ひめゆりの塔

この冒険から何を得るのか

私たちは、戦争による人的損失、平和の重要性、歴史の保存、将来の紛争を防ぐための平和の促進について深く理解しました。

"Remember to stay human.
Always prioritize your own life"

令和6年度4年留学生

平和学習

ひめゆりの学校

沖縄戦の前、沖縄には、沖縄師範学校女子部と沖縄県立第一高等女学校という二つの学校がありました。二校は、キャンパスや校舎を共有していました。師範は教員になるための、一高女は普通教育を受けるための学校で、優秀な若者たちが集まりました。二校は、「ひめゆり」の愛称で親しまれていました。伝統ある両校は、豊富な知識を持つ教師陣や県内随一の施設を共有する学校であり、多くの子女が憧れた学校でした。

ひめゆりの生徒たちの生活も、今と同じように、部活動に参加し、流行のイラストやアイテムに熱中し、小説等を回し読みするなど、楽しい学校生活を過ごしていました。

バスケットボール部

寮の部屋にて

みんなは楽しい生活を送っていました

1945年3月

米軍は、沖縄本島への上陸作戦を開始しました。

沖縄陸軍病院第二外科壕の内部

生徒や先生を合わせて240人がひめゆり学徒隊として南風原の沖縄陸軍病院に動員されました。

血と膿と排泄物の悪臭が充満し、暗く湿った劣悪な環境の中で、ひめゆりの生徒たちは、看護要員として働くこととなりました。

南部撤退

5月25日、生徒たちは、歩ける患者に手を貸し、傷ついた友人を担架に乗せ、薬品などを背負って、南部へと移動しました。重傷を負った学友や兵士たちは、病院壕に残さざるをえませんでした。

6月18日「解散命令」

「伊原第三外科壕」に避難し、壕に隠れていたひめゆりの生徒たちは6月19日早朝、米軍による攻撃で亡くなりました。伊原第三外科壕の上に、沖縄戦で亡くなった生徒や教員を慰霊する「ひめゆりの塔」が建立されました。

感想

- 無邪気な青春を奪われた悲しみ
- 戦争の恐怖

10代の女の子たちは普通の生活から突然戦争のための訓練され、戦争へ送られた。それから想像もできない戦争の残酷さを体験し、爆撃や銃撃、食糧不足などで自分の友達がなくなっていき、同じ学生として深い悲しみを感じました。

感想

- リーダーとして賢明でなければならない
- 人は人性を守る

松本ひろみ先生から平和講義を受け、集団自殺や戦争中生活の大変さなどについて学んだが、重要なポイントは以上二つの点だ。私もこれらの点に賛成する。リーダーは人々を率いるので、人々に大きな影響を与える。もし、リーダーが危険思想を持っていれば、人々は洗脳され、自分自身の価値観が崩れることになるだろう。そのため、生活・社会・国家が崩壊するだろう。戦争だけではなく、いつでも人の価値観を守らないといけない。困難な時お互いに助け、現在このような平和であり、幸福な生活を守りましょう。

Say NO to War. Stay PEACE